

令和3年度学校評価報告書

■ 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	基礎・基本の定着に向けた授業、探究活動、資格取得指導については、生徒・保護者からの肯定度も高く、教員の意識も高い。学習習慣の定着に向けた取組が不十分である。学習に対する興味・関心を喚起できる学習指導や評価方法についての校内研修を実施した。	家庭学習の定着に向けた効果的な取組を期待する。目指す学力の定着に向けて、地域社会と一体となって学習の場を提供してもらいたい。
改善方策	ICT機器を用いた遠隔授業の有効活用を図る。基礎基本の定着だけではなく、更に幅広い興味・関心に応えられる教育課程を目指す。面談を通じて、適切な学び方指導を進めるとともに、評価方法の研究などを進め、授業改善や学習指導の改善につなげていく。	
生徒指導	挨拶、遅刻、身だしなみ等含む基本的な生活習慣の確立のため、全職員の共通理解のもと継続して指導できた。感染対策を徹底した上で、学校祭をはじめ、交通安全・携帯・薬物乱用防止などの講習会を開催できた。	小規模校であることを活かしてのきめの細かい指導や個別支援に期待する。現代社会において、スマートフォンのトラブル等、生活習慣も含め、自身を守ることができる環境を確立してもらいたい。
改善方策	日常生活の中で善悪の判断や規範意識の向上を目指す指導に引き続き力を入れ、様々な活動の中でコミュニケーション力や生徒の主体性を育てる学校行事や部活動の取組を推進する。通級制度を通して教育的支援が必要な生徒に対しての支援の充実を図る。	
進路指導	昨年に引き続き、コロナ禍により制約を受けながらも地元企業の協力を得て、インターンシップや職場見学を実施した。また上級学校見学、3年生による進路体験発表、進学希望者を対象とする進学相談会への参加などにより進路意識の向上を図った。進学希望者への模試講習を実施することができた。	コロナ禍によりいろいろな取組が中止になり、オンライン等で工夫が見られる。生徒たちの個別の多様性のある対応が必要と感じられる。今後のインターンシップ等で、地域のネットワークを活用してもらいたい。
改善方策	生徒に多様な進路体験をさせることが望ましいのはもちろんであるが、社会情勢を鑑み、外部の協力を得ながら、進路ガイダンスやインターンシップを工夫しながら実施していく。生徒の希望進路実現に向けた適切な情報提供とバックアップにより、挑戦する意欲を高めていく。	
健康・安全指導	日常の清掃及び管理区域の点検については、教職員の理解と協力により目標を達成できた。保健指導・疾病予防についても、養護教諭のきめ細やかな対応が成果を残した。	令和4年度からの通級指導の開始について、地域からの期待が大きい。小・中・高・地域と連携した仕組みづくりに協力したい。
改善方策	生徒が健康・安全について意識し行動できるよう、あらゆる教育活動の中で意識づけ・注意喚起を行いたい。	

【学校運営に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
信頼される学校づくり 協働体制による教育活動の充実 教育公務員としての自覚と行動	コロナ禍が続く中で、PTAの協力を得ながら、学校祭や冬季球技大会などの行事を行うことができた。北海道CLASSプロジェクトの活動を通して、地域と多様な繋がりを構築することができた。 情報機器の整備やBYODへの対応が進展したが、運用上の課題が不透明であり、実用を図りながら研究を進めていく必要がある。 スクールミッション、スクールポリシーが年度途中で設定されたので、教育活動への浸透を図っていく。	生徒へ寄り添った指導であると感じました。今後も指導力の向上を願います。更なる生徒数増に工夫するなどご尽力ください。 地域探究に向けた生徒の取組に大きな可能性を感じます。
改善方策	校内のネットワーク環境をさらに整備し、活用を図っていく。HPやオンラインシステムを効果的に活用して、生徒や保護者へのPRを強化するとともに、魅力ある学校だよりを計画的に発行し、保護者・地域への発信を工夫することで、学校理解・信頼度のさらなる向上につなげる。北海道CLASSプロジェクトの取組をさらに発展させ、高校や地域の魅力化の一助とする。	